

兒こ雷らい也や豪傑こうかく譚たん
 上の卷
 廿九篇にじゅうきゅう



へ13
 3878
 57

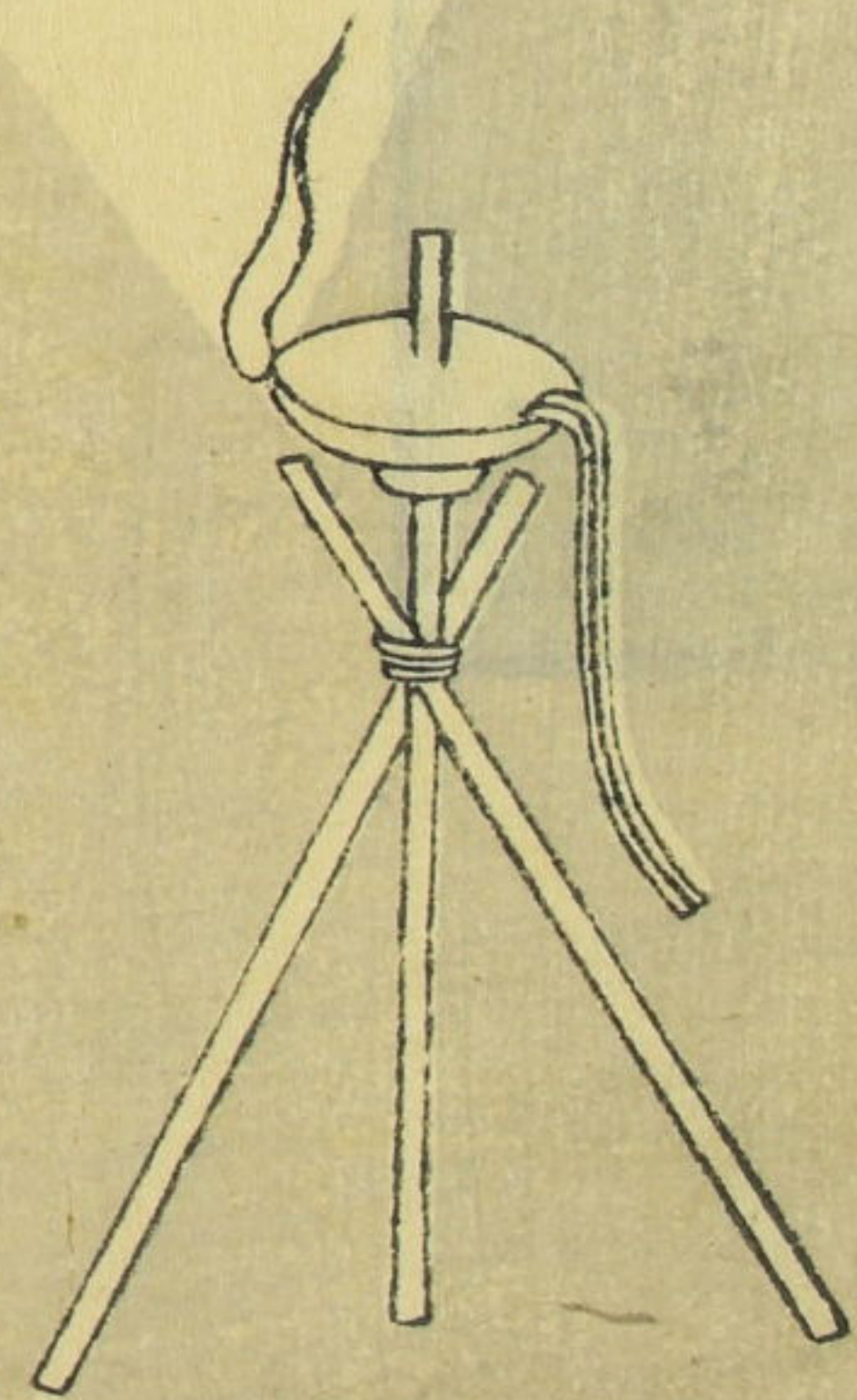


門へ 13
 號 3878
 卷 57

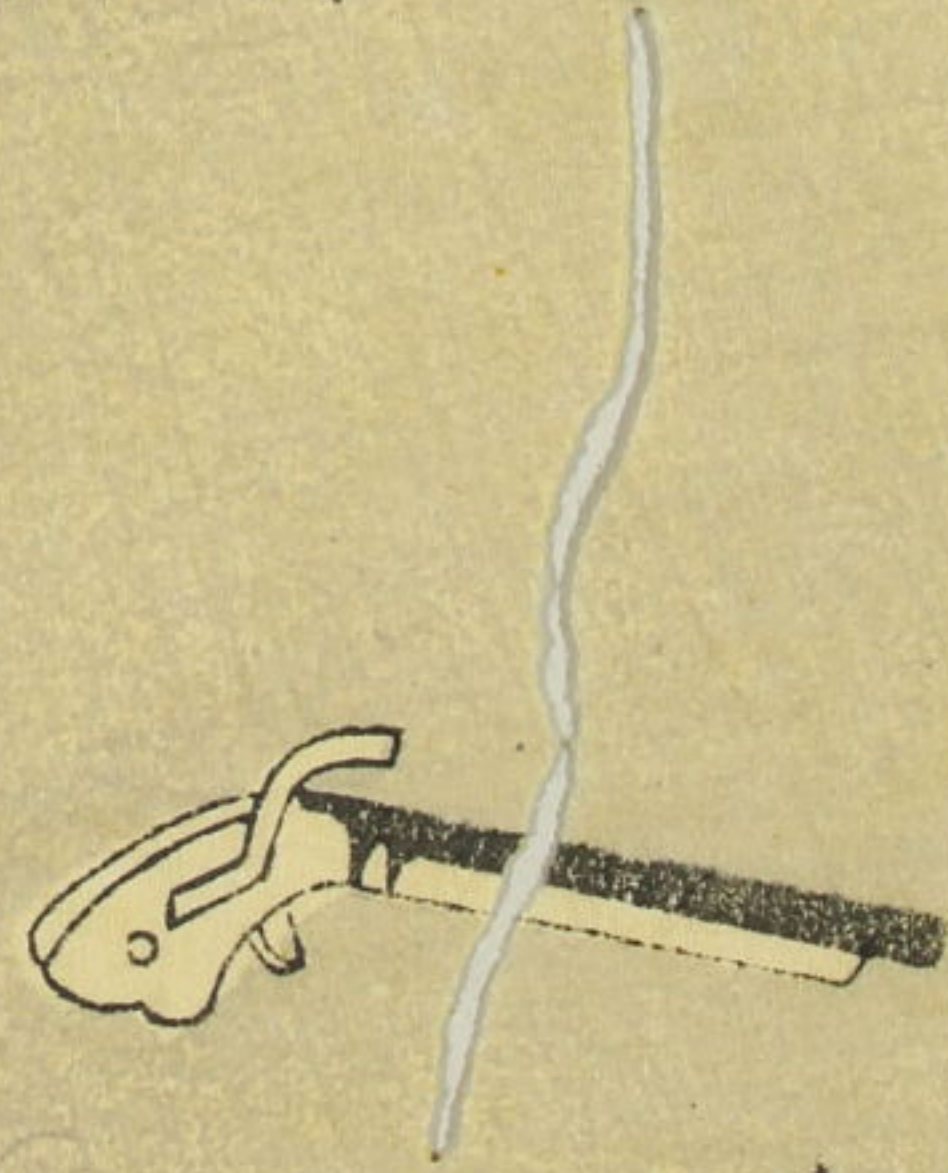
兒雷也
 豪傑譚

上卷

一 榊の亭作
 壽多画



糸市 榊



一 一

井中の蛙大海と知で無考も後編を作繼し大著述的の兒雷也物語赤畫の白地恥とさしはつて蜘蛛の眼鼻も不分明孟浪編せり九余集嘸擱のちやう長譚過るに無汰寸行止り小坐魚の生かす筆も走らざればとて又今更ふ氣も角もなりうぬも我幅で這出蝦蟆の術悪人の尾形周馬が何的問ふら善人小轉畫も用尽し一在方ちの禪秀乱犬懸退治の謀略あり賤橋山の閑談終趣向も至極扱煩望月が處女の替婿場迫ふ此巻を漸綴果ヤレ悦喜やと蒼息溜息五色の息とホトつさへ蟾蜍が吐ある虹霓ふ能似くらんも

安政丙辰端月

卯五

柳下亭種員記



記書也七乙三病

越後國領主
 月影深雪之助



月詣集

頭縁

それをささる

わがてき

ひら

小松系

いづれ

手代

多光

なら

たか

同家の侍女

細手

宛雷也七九編





田毎前

田毎前



高砂勇見支助の

照田

万葉集 大伴家持

初喜の

たの喜の

たの喜の

ての喜の

うの喜の

あゝ

うの喜の





傘持

柴平

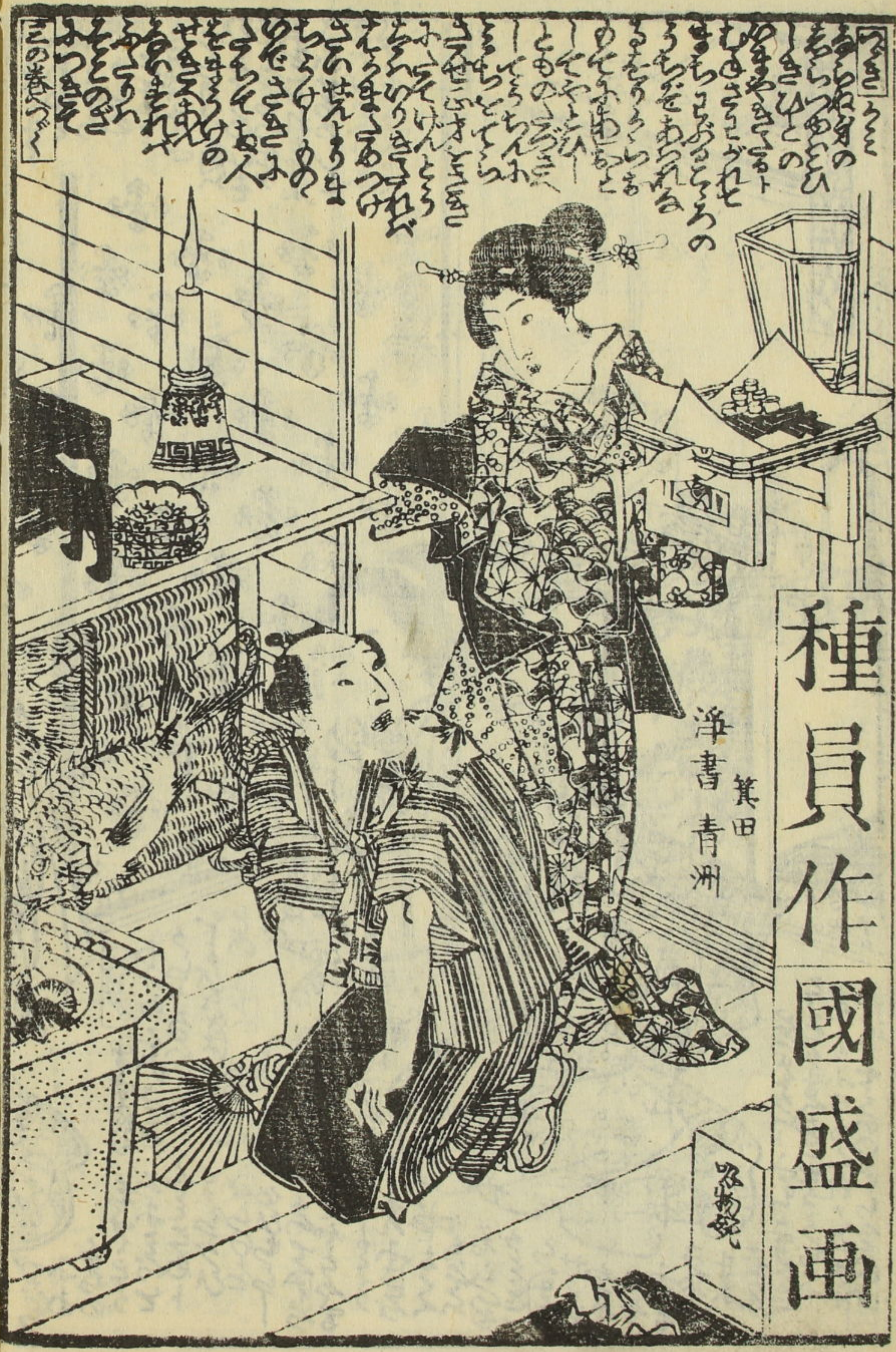
大根屋

子の目

濱菰陸三郎



陸三郎
於園妻



種員作國盛画

其田 淨書 青洲

一 兎雷也豪傑譚

四拾七篇

書肆 地本 問屋

一 休草紙

拾五篇

芝神明前 和泉屋

一 風俗淺間嶽

拾四篇

市兵衛

一 黃金水大盡盃

拾七篇

銀座四丁目 同 支店

